

発行 福生市
〒197 東京都福生市本町5
編集 市長公室秘書広報課
市役所の代表電話番号
0425-51-1511

FUSSA

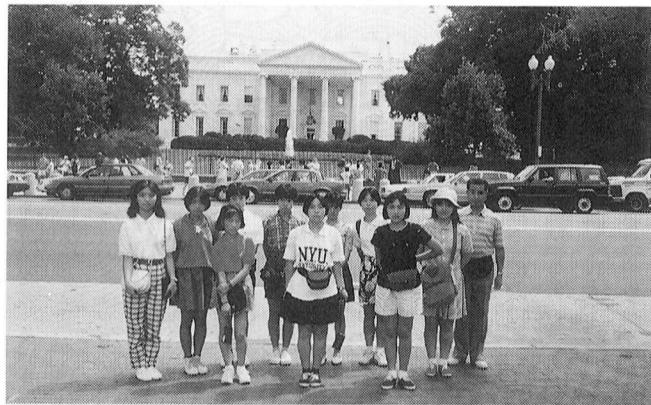
ふっさ

平成4年(1992年)

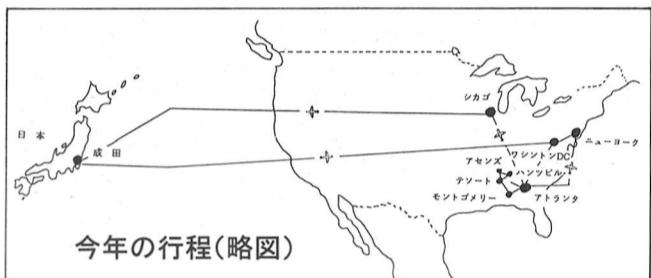
4月1日

No.372

いじ
もくせつ
市の木
市の花
市の鳥
シジュウカラ



▲昨年のジュニア大使友情使節団(ホワイトハウスにて)



今年の行程(略図)

問合せ 教育委員会社会教育課
社会教育係 (52-55) 11
5月17日(日) 5月17日(日)

申込み 福生市青少年海外派遣
会教育課に用意してあります。
事前・事後研修に参加する
交通費及び任意保険料等は
本人の負担となります。
直接、社会教育課に提出し
(ただし、第2土曜日、日
曜日は除きます)
(ただし、第2土曜日、日
曜日は除きます)
15日(水)午後5時までに
出でます。また、戸籍謄本
など添付書類も一通でよく
なりました。

問合せ 市民課戸籍係 (51-1511) 内線266へ。
4月1日から、福生市に出
生届、婚姻届などの戸籍の届
け出をする場合、すべて一通
で足ります。また、戸籍謄本
など添付書類も一通でよく
なりました。

戸籍の届書が
よくなりました

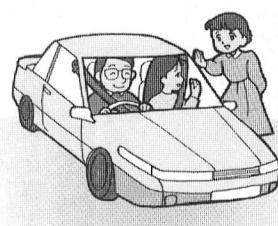
一通で

今回の交通安全運動を一つの
きっかけとして心にゆとりをも
ち、さわやかマナーを基調とし
た交通安全の輪を地域、職場、
家庭の隅々まで広げましょう。

高齢者と子どもの事故防止



シートベルトの着用の徹底



◎シートベルトは、たるみやね
じれがないようにはめてもら
う
◎同乗者にも必ず締めてもら
う
◎シートベルトを着用できない
子供などを同乗させる場合は
後部座席とし、助手席に同乗
させる場合は「年少者用補助
乗車装置」を活用しましょう
「わが命 たくすべルトとヘルメット」

本紙は再生紙(古紙70パーセント以上)を使用しています

福生市では青少年の海外派遣事業として、市内の中学生10人をアメリカ合衆国に派遣します。

この事業に参加すると、滞在期間中は現地の方との交流、施設見学、表敬訪問などの他、外国家庭の一員として生活するホームステイも行います。この事業に参加を希望される方は、次の要領によりお申し込みください。

派遣先

アメリカ合衆国(ワシントンDC、ニューヨーク、アトランタ及び北アラバマ諸都市他)

派遣期間

7月23日(木)から8月6日(木)までの15日間「国内事前研修 7月22日(水)都内泊」

応募資格

日本国籍を有し、次の要件を満たす方

(1) 公・私立中学校に在学する生徒で、平成4年4月1日現在福生市に引き続き1年以上居住している方
(2) 心身共に健康で、協調性があり、規律ある団体生活ができる方

(3) 事前研修、事後研修などのプログラムにすべて参加し、帰国後は、地域や学校において活動的な活動ができる方
(4) 保護者の承認が得られる方
(5) 福生市の海外派遣事業に参加した方は除く

募集人員 中学生 10人

選考 書類、作文(課題方式)及び面接等によって行います。その結果、多数の場合には抽選で決定します。

費用 旅費、宿泊費等は全額市で負担します。ただし、事前・事後研修に参加する交通費及び任意保険料等は本人の負担となります。

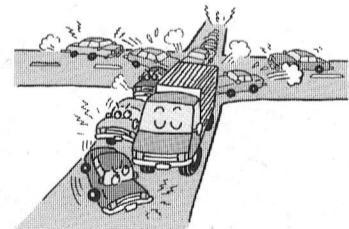
申込み 福生市青少年海外派遣会教育課に用意してあります。事前に写真を添付し、4月15日(水)午後5時までに直接、社会教育課に提出してください。

平成4年5月20日任期満了による福生市長選挙は、次のとおり行われます。
告示日 5月10日(日)
投票日 5月17日(日)
選挙会(開票) 5月17日(日)即日開票

有権者の貴重な一票が、明るい選挙で、あなたの意思を表すために必ず投票しましょう。

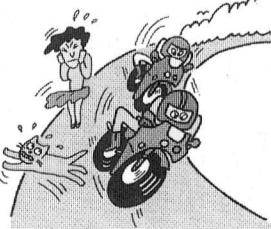
福生市長選挙 投票日 5月17日(日)

放置駐車の追放



☆ドライバーの皆さんへ
高齢者や子どもたちの身になつてやさしい運転をお願いします。
「その横断車の速さを忘れてる」車の速さを忘れてる

二輪車の交通事故防止



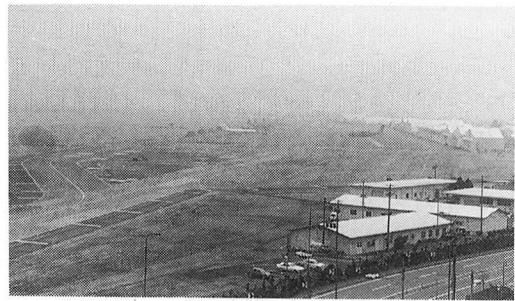
◎放置駐車は交通事故や交通渋滞の原因になりますのでやめましょう
◎できるだけ自動車利用を避け、電車やバスを利用しましょう
◎車は必ず、車庫、駐車場内に入れましょう
「みんなでなくそ」

◎車は必ず、車庫、駐車場内に入れましょう
「みんなでなくそ」

◎安全な速度で走りましょう
◎交差点では、しっかり安全を確認しましょう
◎速度超過、信号無視、飲酒運転等の無謀運転は絶対にやめましょう
◎暴走行為はしない、させない
「スピードが見えにいかない
優しい貴方を鬼にする」

◎安全な速度で走りましょう
◎交差点では、しっかり安全を確認しましょう
◎速度超過、信号無視、飲酒運転等の無謀運転は絶対にやめましょう
◎暴走行為はしない、させない
「スピードが見えにいかない
優しい貴方を鬼にする」

◎安全な速度で走りましょう
◎交差点では、しっかり安全を確認しましょう
◎速度超過、信号無視、飲酒運転等の無謀運転は絶対にやめましょう
◎暴走行為はしない、させない
「スピードが見えにいかない
優しい貴方を鬼にする」



▲ 横田基地 民間空港化は慎重に

のため日本国内に展開する主要米軍基地の配備については、大きな変化はないとの米国防省高官の発言も報道されておりました。また、日本国政府として、基地返還についてはその見通しとして見解も示されておりませんし、わが国の防衛予算の中で、米軍の国内配備を要する経費についての分担は、相変わらず高水準にあると思つております。実際のところ、私共が目的にいたします横田基地内では、依然として施設の建設がされているという状況にござります。

これらのこと踏まえて考えてみると、情勢の変化は見えますが、横田基地については、当面、多くの変化は望めないのではないかというのが、目下の私の心境です。

ただ、仮に将来の返還について考える場合、基地の99パーセントが国有地という現実の中で、返還をどのように実現させていくのか、現実的な手法として何が考えられるのか、その課題は、あまりにも大きいものであります。今後、国や東京都などの各方面において、いろいろな議論がされて良いのではなかと考えておりますし、大いなる論議をいただきたいと願しております。

現在、東京都では、多摩地域振興施策としての大規模集客施設につきまして、多摩東京移管百周年記念事業の推進とも関連付けながら、現在、それぞれの施設の配置について具体的な検討に入っています。その中で福生市が強力に誘致運動を開いてきました宇宙科学館について

そのときには、福生市も市議会と協議、検討のうえ、何らかの意見を言わせていただかなければならぬと思いますが、現段階では、まだ、慎重を期すべき時ではないかと思います。

なお、「民間空港化」につきましては、私自身そのような考え方で、見解を述べたことはあります。近隣市町長さんの反対のご発言に対比させる形で、私の「共同使用方式は現実性のある話題」という段階的返還の発言が一人歩きをし、誤解されているものと思われます。この問題は、私自身十分なデータの持ち合わせがありませんし、市民生活に与える影響など考慮し、慎重な対応が必要と考えております。



▲ 燃やせるごみを処理している西多摩衛生組合

ては、いよいよ、平成4年度には、東京都の基本構想策定に向け、調査費として5千7百万円が東京都予算に計上されることとなり、より一層明るい見通しとなっていました。

陸橋通りの道路拡幅を先行



▲ 交通量の多い陸橋通り

次に、これも先に触れました熊川地区土地区画整理事業です。改めて、今後の方針について考え方を申し述べます。

今の状況から更に土地区画整理事業としてその進捗を図るということは非常に困難なことと判断されます。しかし、このままでは、いつまでも今の状況が続き、地域にとって好ましい方向を見いだすことができません。

ごみ減量対策を設ける



▲ 交通量の多い陸橋通り

この収集方法は、市民の皆さんにごみを徹底して分け、それから収集所に出していただくという面倒な行為を、改めてお願ひする訳ですが、このことから市民主の皆さんにごみ問題の深刻さをご認識いただくと共に、ごみに対する意識の改革をお願いしようとするものです。

そこで、この地域で何が最大の課題か、何が急がなければならぬかを考える中で、地元の方々の声として歩行者の通行の安全と円滑な交通の確保を図ることが最重要、緊急課題となることがありますので、国道16号線及び将来の圏央道へのアクセスをも含め考慮しながら、陸橋通りの拡幅を先に行い、土地区画整理事業については、その研究の中で、東京都の多摩地域振興策の一つとして取り上げられておりました大規模集客施設を福生市に誘致するため、要請活動を続けてまいりました。

つい先日、この協議会からのご意見のまとめをいただきまして、今年度、広く市民のご参加をいただき、ごみ減量方策についてのご検討をお願いしてきました。

私は、この問題に対処するため、今年度、広く市民のご参加をいただき、ごみ減量方策についてのご検討をお願いしてきました。

統いて、今、取り組みを急がなければならない課題ですが、その一つが、ごみ問題です。

私は、この問題に対処するため、今年度、広く市民のご参加をいただき、ごみ減量方策についてのご検討をお願いしてきました。

統いて、今、取り組みを急がなければならない課題ですが、その一つが、ごみ問題です。

私は、この問題に対処するため、今年度、広く市民のご参加をいただき、ごみ減量方策についてのご検討をお願いしてきました。

統いて、今、取り組みを急がなければならない課題ですが、その一つが、ごみ問題です。

二つには、新たな行政課題となっています高齢社会への対応があります。高齢化社会の到来とともに、その施策の在り方があります。

私は、福祉施策の基本的な在り方としては、各種の施策が市民一人ひとりの自立のための力フル剤となるものでなければなりません。自己回復力を失ってしまうような施策の在り方であります。

私は、福祉施策の基本的な在り方としては、各種の施策が市民一人ひとりの自立のための力フル剤となるものでなければなりません。自己回復力を失ってしまうような施策の在り方であります。

この課題を乗り切るために決定打は、何と申しましても人の力、その力の集合であると考えます。在宅福祉は、いま住んでいるところで、安らかな日々を送るということであり、その安心と安らぎの基は、助けあえる人が身近にいる、いざというとき身近の力で助けあえるといふことであると思います。

しかし、この身近の助けあいの力は、一朝一夕に生まれるもの

ではありませんし、行政の力だけで成しうるものでもありません。市民の皆さんと行政との総和として成し遂げられるものと考えます。そのためには、日頃の地域での連携がなければ成り立ちません。

その点、福生市には、町会、自治会という自主的な地域組織があります。この組織が、地域内により一層連携を深められ、継続的な活動をされる中から、連携し、共に生きる力が培われてくるものと思います。

そこで、このような地域での連携を高め、相互援助と協力を進めながら、資源です。ご協力を願っております。

この制度は、基本としては地域での自主活動を支援し、地域の活性化を図ろうとするものですが、これが一つのきっかけとなり、地域での相互援助、相互協力の輪となり、今後の高齢社会や生涯学習社会、あるいは余暇時代の到来に備えることとしていただきたいと考えております。

以上、平成4年度の市政運営の基本的な考え方につきまして申し上げました。

最後に、私の任期は本年5月20日までですが、任期満了に伴います市長選挙には、私の支持者から引き続き市政を担当するために立候補すべきであるという支持があり、熟慮いたしました結果、今期お約束をいたしました施設の達成には、なお、時間がいただき、担当させていたただかなければならぬ事業もあります。在宅福祉は、いま住んでいるところで、安らかな日々を送るということであり、その安心と安らぎの基は、助けあえる人が身近にいる、いざというとき身近の力で助けあえるといふことであると思います。

（予算に関する部分については省略しております。予算について

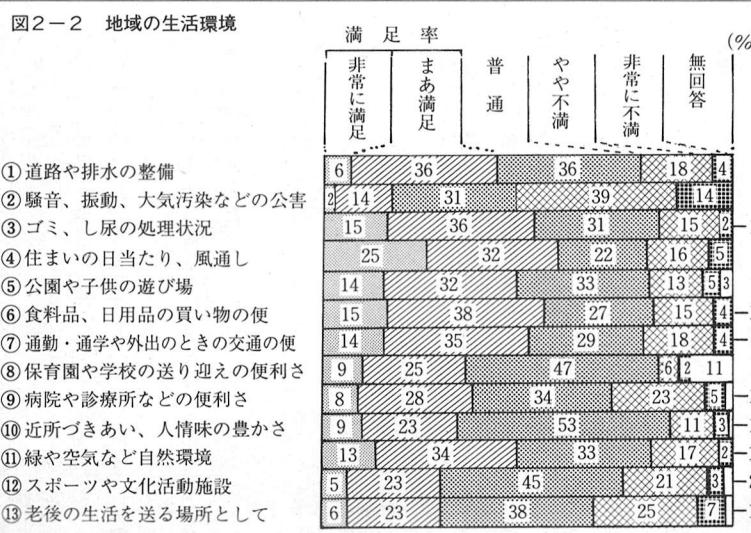
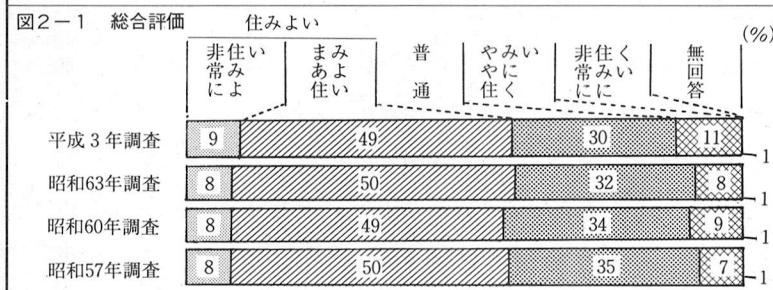
ては、4月15日号広報に掲載します）

●生活環境の評価

市全体を総合した住み良さについて「住みよい」という人が58%で(図2-1)で前回と比べそれほど変化はありませんが、地域の生活環境の評価では、個別的にかなり厳しい評価がみられました。

「非常に満足」、「まあ満足」を合せた満足率では、3項目が50%を超えたのに対し、10項目が50%を下まわっています。(前回は5項目が50%を超え8項目が50%を下まわる)また、「普通」中立的評価を含めると、13項目中11項目が70%以上の好意的な評価で占められていますが、「騒音・振動・大気汚染などの公害」については、不満足率が50%に達した唯一の項目となっています。(図2-2)

全体として前回より生活環境に対する市民の評価は厳しくなっています。



●ボランティア活動

ボランティア活動を活発にするため市が力を入れるべきは、「気軽に相談できる窓口の設置」が40%で相談窓口の設置を望んでいます。「ボランティア活動の拠点となるセンターの設置」32%となっています。(図5-1)

有償福祉サービスについては、「他人に役立ち収入もあるので活動したい」が13%、「できるうちに活動し将来は自分も(サービス)受ける」が30%で、合せて43%の人が有償福祉サービスに肯定的な意見をもっています。(図5-2)男女、年齢別でみると男性は50歳代、女性は30歳代、40歳代、50歳代で肯定的な意見が多くなっています。

図5-2 有償福祉サービス 肯定的意見

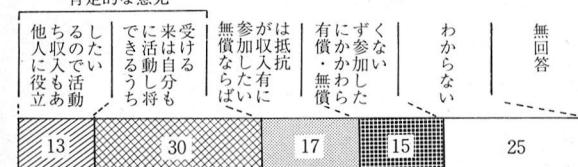


図5-1 ボランティア活動の重点

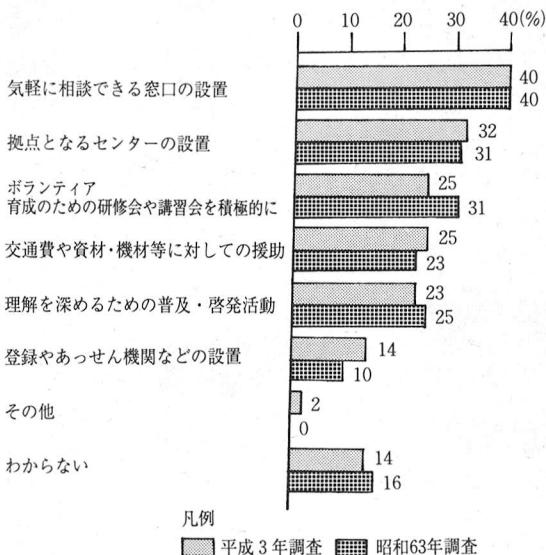
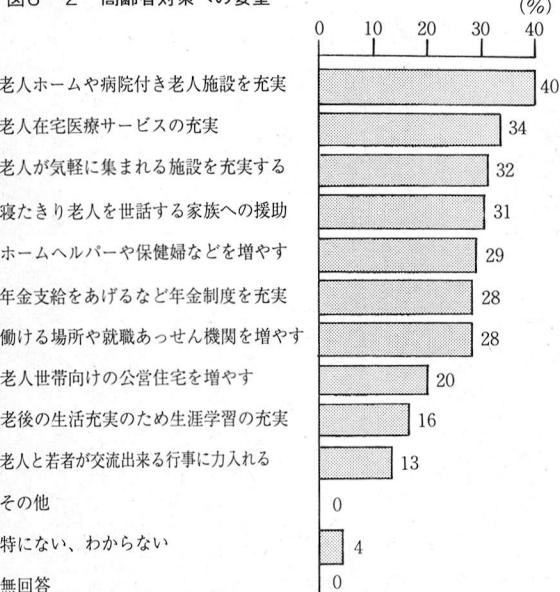


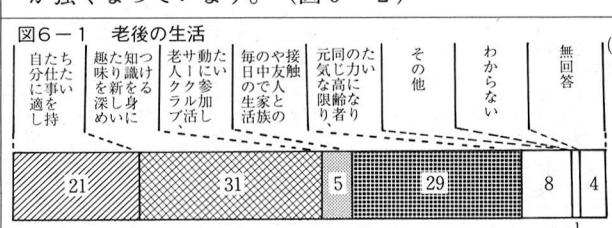
図6-2 高齢者対策への要望



●高齢化社会

老後の生活をどのようにくらしていきたいかには、「趣味を深めたり、新しい知識を身につける」が31%、「毎日の生活の中で家族や友人との接触」が29%となっています。「趣味を深めたり、新しい知識を身につける」という人は、男女を問わず全年齢にわたって多く、特に、40歳代の女性(38%)が目立っています。(図6-1)

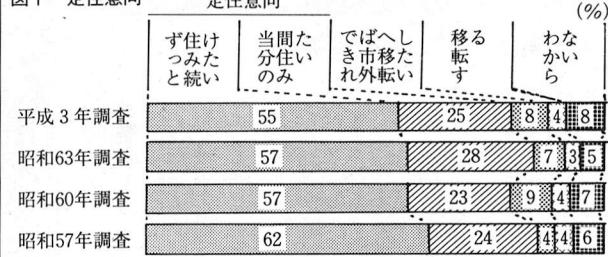
今後の高齢者対策に関する要望としてもっとも多いのは、「老人ホームや病院付き老人施設の充実」が40%、「老人在宅医療サービスの充実」が34%、「老人が気軽に集まる施設を充実する」が32%になっています。この上位3位までは、男女、年齢を問わず要望が強くなっています。(図6-2)



●定住意識

市民の50%が昭和50年度以降の転入者で居住歴の浅い市民の割合が増えていて「ずっと住み続けたい」、「当分の間住みたい」の定住意向が80%となってています。なお、前回調査(昭和63年度実施)に比べ5%下がっています。(図1)

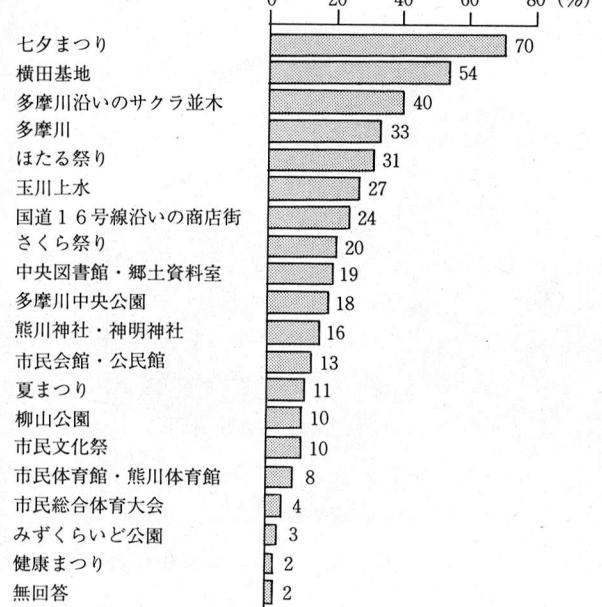
図1 定住意向 定住意向



●福生市の魅力

福生らしい魅力を感じるに「七夕まつり」が最も多く70%、「横田基地」が54%、「多摩川沿いのサクラ並木」40%となっています。「七夕まつり」は、すべての男女、年齢で1位または2位になっています。「横田基地」については男女とも20歳代、30歳代で高くなっています。(図3)

図3 福生市の魅力



●横田基地

横田基地については、「あって当然である」が7%、「あってもやむを得ない」17%、「やむを得ないが、騒音対策等に力を入れるべきだ」が52%と肯定で、賛成を表明したものが、76%となって、前回と同じです。「市の発展に影響しているのでない方がよい」が12%、「必要な施設だが福生市にあるのは困る」が5%で合計で17%が否定的な立場となっています。(図4-1)将来の横田基地のあり方については、「このまま米軍基地として使用すべきだ」が12%、「自衛隊が代わって使用すべきだ」2%、「民間空港にすべきだ」が16%、「日本に返還して福生市等のまちづくりに役立てるべきだ」が60%です。「民間空港にすべきだ」という人も加え76%の市民が返還を希望しています。(図4-2)

図4-1 横田基地の賛否

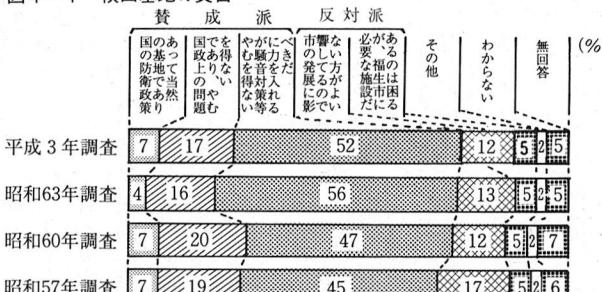


図4-2 将來の横田基地の在り方

